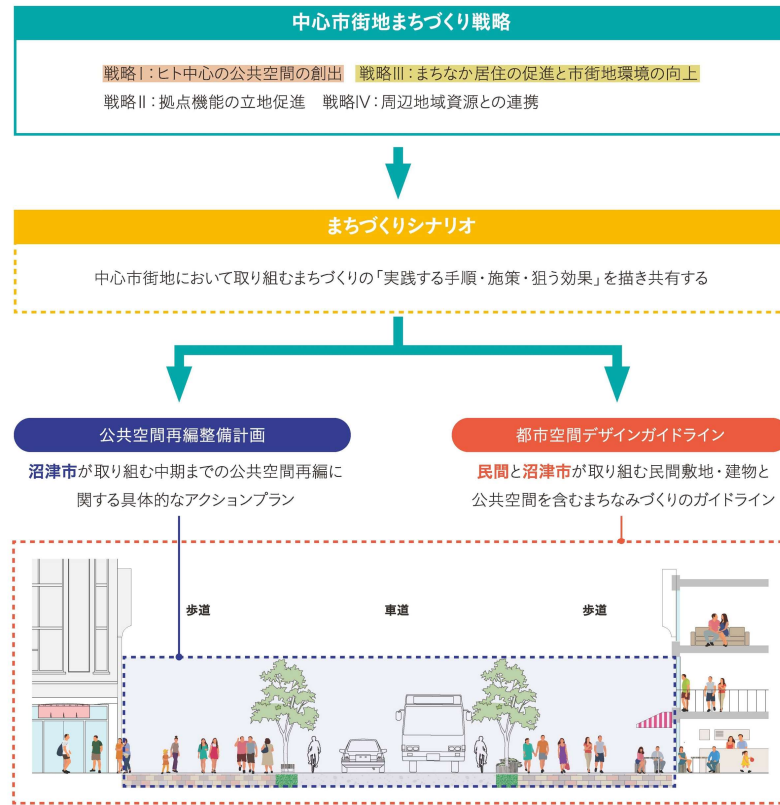




## [中心市街地まちづくり戦略の実現に向けて]

中心市街地まちづくり戦略で示す中期（5～15年後）のまちの姿の実現に向けて、公共空間再編に関する具体的なアクションプランとなる「公共空間再編整備計画」と、民間敷地・建物と公共空間を含むまちづくりのガイドラインとなる「都市空間デザインガイドライン」を策定し、これらを連動しながら、ヒト中心のまちづくりを進めていきます。



## [目的]

### ○ ヒト中心の都市空間の実現によるまちの活性化

生活の質・住みやすさの向上によるまちなか居住の促進と、歩行者空間等の利活用推進により、まちのにぎわいや経済活動の活性化を目指します。

### ○ 持続可能で環境と共生したまちなかの実現

地球温暖化等への対応を意識した再編整備や、公共交通を中心とした快適に歩いて暮らせる空間への転換により、コンパクトで持続可能な、環境に配慮したまちなかを実現します。

### ○ 社会情勢の変化に対応した段階的なまちづくりの推進

社会情勢の変化にも本市にふさわしい形を検討する中で柔軟に対応して、具体的な事業内容を検討し、社会実験等による検証も重ねながらまちづくりを進めていきます。

## [まちづくりシナリオ（5～15年での実現ステップ）]

「中心市街地まちづくり戦略」で示された中期のまちの姿の実現に向けて、どこから、どのような考え方で、沼津の中心市街地が変化していくと、まちの変化への期待感が沸き、民間との連携が進んでいくのか、その「実践する手順、施策、狙う効果」を「まちづくりシナリオ」として描き、官民で共有しながら一体となった取組を進めて行くことを目指します。

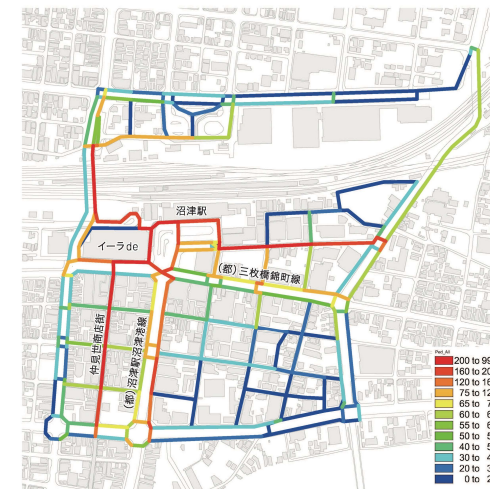
「まちづくりシナリオ」の展開に当たっては、まちなかの公共空間や資源をまちにひらくことで生まれる風景を、日常へとつなげ、ヒト中心のまちなかの姿を創り出していく「OPEN NUMAZU（オープンヌマヅ）」の考えのもと、取組を進めていきます。

	点「つかう・つくる」		線「つながる」		面「ひろがる」	
	PHASE 1-1 (R3～)	PHASE 1-2 (R4～)	PHASE 2-1 (R6～)	PHASE 2-2 (R9～)	PHASE 3-1 (R12～)	PHASE 3-2 (R15～)
イメージ						
施策概要・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちなかの貴重なオープンスペースである中央公園での利活用の取組に加え、空間のポテンシャルが最も高い(都)三枚橋錦町線西側区間において車道の一部を歩行者空間化する社会実験を実施する。</li> <li>公共空間の利活用に対する機運やまちの変化に対する市民の期待を醸成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会実験を踏まえて、(都)三枚橋錦町線西側区間における定期的な地先空間活用を図り、まちなかに新たな滞留・にぎわいスポットを生み出す。</li> <li>仲見世商店街周辺で地先空間活用に係る新たな取組を試行し、「(都)三枚橋錦町線西側区間・仲見世商店街・中央公園・旧国1南エリア」へ歩行者の回遊を生み出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南口駅前広場の暫定整備に向けて、一般車乗降場の東西分散化・周辺交通への影響に関する社会実験を実施する。</li> <li>(都)三枚橋錦町線西側区間の再編整備、整備後の歩行者空間の利活用を推進し、駅からの動線及び仲見世商店街・中央公園を含む南北のつながりを強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南口駅前広場の暫定整備とUR敷地での活動拠点づくりにより、開かれた空間を駅前に創出し、まちなかにヒトの交流によるにぎわいを生み出す。</li> <li>(都)沼津駅沼津港線等の空間再配分に向けて、車線数の減少・沼津駅南口交差点の地上横断化に関する社会実験を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅前街路の再編整備、沼津駅南口交差点の地上横断化により、歩きやすいまちなかを実現し、歩行者回遊範囲の面的拡大を図る。</li> <li>(都)沼津駅沼津港線沿道と仲見世商店街周辺の連携による空間利活用により、東西方向でのヒトの流れを生み出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回遊環境の向上に合わせて、民間主導による低未利用地の活用や既存店舗の改修などを推進し、取組をエリア全体に広げていくことで、まちなかのエリア価値を高める。</li> </ul>

## [現況分析]

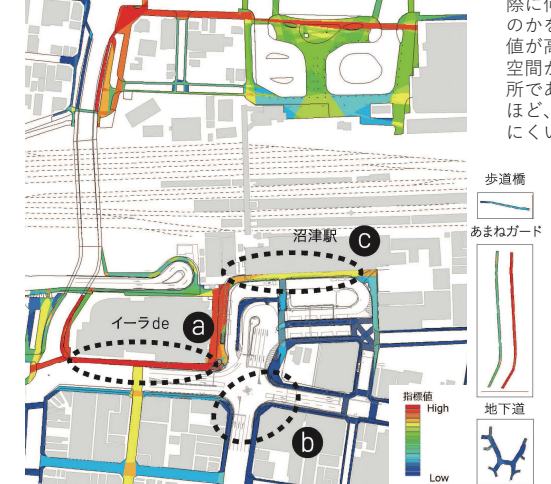
中心市街地における歩行者の回遊特性を把握する「プローブパーソン調査」や、空間や動線ネットワークのつながり等の特性を把握する「空間特性分析」を行い、現況の課題等を整理しました。

### 歩行者通行量（プローブパーソン調査）



- 南北の人の流れが強い（赤系）傾向にあり、(都)沼津駅沼津港線やイーラde周辺～仲見世商店街周辺が移動経路として多く選択されている。
- 沼津駅南口周辺を除き、東西方向の移動が少ない。

### アクセス性指標（空間特性分析）



◀ ある場所から他の場所へ行く際に何回曲がってたり着くのかを平均値で示した指標。値が高い（赤系）ほど、その空間が街を繋ぐ上で重要な場所であり、値が低い（青系）ほど、その空間にたどり着きにくい。

- イーラdeの南側は、最も動線的なポテンシャルが高い場所の一つとなっている。(a)
- 地下通路より南側・東側のブロックは、極端に指標が低く、人通りができにくい状況となっている。(b)
- 沼津駅南口の出入口付近の指標値はやや低く、駅前のネットワークの中でやや奥まった位置にある。(c)



## 【公共空間の再編計画】

まちづくりシナリオで示す“生み出す歩行者動線”の実現に向けて、駅前広場・駅前街路・地区交通体系の再編に取り組んでいきます。

### 駅前広場：まちなかで過ごしたくなる、居心地の良い空間へ

- 誰もが安心してそれぞれの空間を過ごすことができる滞留空間の創出
- まちなかで緑や自然を感じられる居心地の良い空間の創出
- 様々な人の交流や活動、新たな出会いを生み出す場づくり



中央公園等へと続くまちなかの緑の軸を意識しながら、まちなかでの新たな活動を生み出す場として、多くの人が訪れやすい空間を目指す。



まとまった広場空間を確保し、休憩などの日常利用から店舗出店など、多様な活動に対応できる空間を目指す。

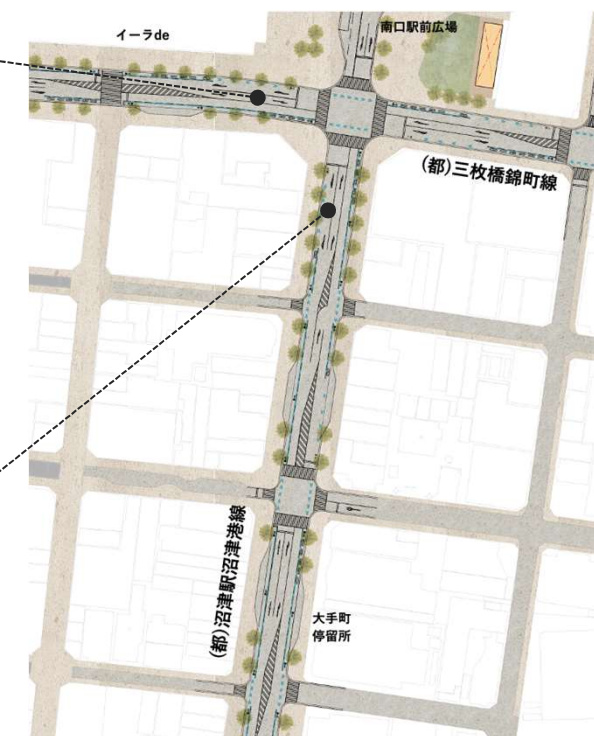
### 駅前街路：駅からまちへ、まちから駅へと歩きたくなる街路空間へ

- 駅からの人の流れをまちなかへとつなげる歩行者動線の充実
- 車線減少と歩道の拡幅による新たなまちなかにぎわいや滞留空間の創出
- まちのシンボルとなる設えや景観等を実現する空間形成



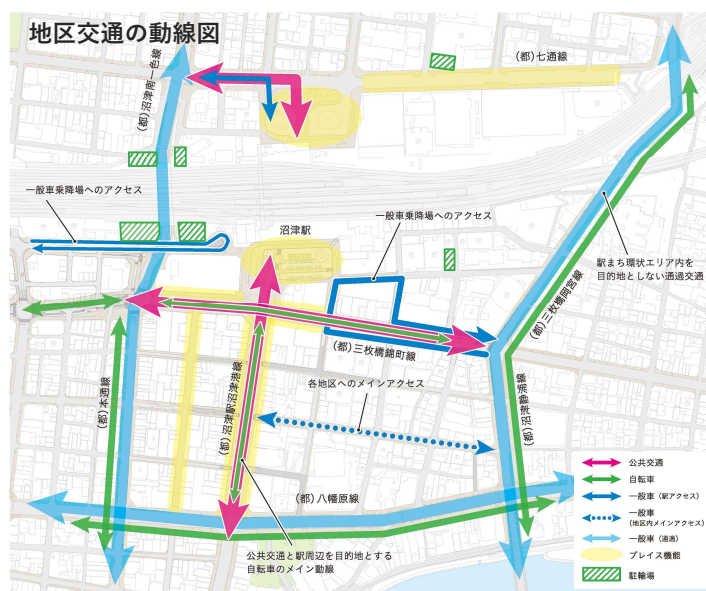
背後のエリアが東西で性格が異なることを意識し、まちの個性として、街路の両側へ取組が積み出すことで、まちなかを歩いて楽しいと感じられる空間を目指す。

駅とまちの一体感や連続性が感じられ、沿道商業施設や商店街等と連携した出店や、まちなかへの来訪者が気軽に休憩できる空間を目指す。



### 地区交通体系：“歩き”を最優先に、安全や使いやすさを意識した交通体系へ

- 公共交通や車などからの乗り換えを意識した整備・交通の誘導
- 安全な歩行環境と快適な自転車走行環境との両立
- 荷捌き動線の整理や交通規制による歩きやすい環境づくり



### 【今後の取組の進め方】

まちづくりシナリオの各ステップにおいて、市民との対話・社会実験・効果検証のサイクルを重ねながら、計画や事業内容の見直し・改善を含め、効果的な再編につなげていきます。

社会実験の実施に当たっては、公共空間再編（ハード）と創出空間の活用（ソフト）という2つの目的を意識し、“つくる”整備だけでなく、“つかう”ことでにぎわいが連鎖する中心市街地を目指していきます。

#### ①公共空間再編（ハード）

